

大阪公立大学 都市科学・防災研究センター(UReC)主催 「いのちを守る都市づくり コミュニティ防災フォーラム 2024」で基調講演をしました (2024/2/17)

テーマ：東日本大震災の教訓、南海トラフ地震・津波への対応
場 所：大阪公立大学 杉本キャンパス 学術情報総合センター（大阪市住吉区）
URL：<https://www.omu.ac.jp/event/entry-02478.html>

大阪公立大学 UReC は、コミュニティの脅威となるリスク評価、リスク・マネジメント、危機管理、防災計画などを体系化し、他の公立大学、行政機関、企業、地域住民と協働した研究や教育実践によるアプローチで、最新の災害研究、情報技術、都市科学を踏まえた新しいコミュニティ防災システムの確立を目指しています。この度、「コミュニティ防災フォーラム2024」が以下の体制で開催され、津波工学研究分野の今村文彦教授が基調講演を行いました。

主催：大阪公立大学 都市科学・防災研究センター（UReC）

共催：東北大学 災害科学国際研究所／自然災害研究協議会 近畿地区部会

後援：大阪府／大阪市／大阪市消防局／堺市

冒頭、重松孝昌大阪公立大学副学長・UReC 所長の開会挨拶、櫻木弘之理事・副学長の挨拶の後に、今村教授が「東日本大震災の教訓と南海トラフ地震への備え」と題した基調講演を実施しました。講演の後には、地震断層（震源だけではなく、断層の広がりも）の表記についての工夫、東北大学と東北電力との震災前の連携（津波堆積物）、事前防災としての重要な点などの質問やご意見をいただきました。

後半では、三田村宗樹 UReC 副所長が JST RISTEX 事業の 3 年間の活動報告をされ、モデレータ生田英輔 UReC 教授により、4 名のパネリストによるパネルディスカッションが行われました。宮野道雄 UReC 特任教授、三田村宗樹 UReC 教授、木戸崇之（（株）エービーシー リブラ）が順次発言し、阪神淡路大震災の振り返り、最近の災害対応について意見を交わし、最後に、今村教授がコメンテータとして、災害は繰り返す中での伝承のリレーや人材のバトンが重要であること、知ることは大切、さらに自分事化、当事者意識に移行することがさらに必要であることを述べました。

大阪公立大学は、昨年、地域中核・特色ある研究大学に採択され、防災や災害科学との連携が主要なテーマのひとつとなっています。また、前日の 2 月 16 日（金）、本学との連携連携包括協定を結んだタイミングでした。

(<https://www.tohoku.ac.jp/japanese/2024/02/news20240219-somu2.html>)



講演中の様子

文責：今村文彦（津波工学研究分野）